



あだいに☆

85号

平成29年7月25日

編集発行：男鹿潟上南秋医師会 <http://oknmed.jp>

〒010-0201 秋田県潟上市天王字上江川47 ☎(018)878-6028 FAX(018)878-2517



目次

● 煙草 笹尾 知	2	● 理事会.....	10
● 遂に酒も飲めなくなったか 浅利正雄 ..	3	● 定例総会.....	10
● 私のふるさと 伊藤貞男	4	● 生涯教育講座.....	11
特集 地産地消について考える		後藤 隆 先生／佐野正明 先生	
・ 人の地産地消について 東紘一郎 ..	5	● 医局旅行記 秋元正年	13
・ 人生を学ぶ…～祭りと地酒～		● ふんぶんコラム.....	14
佐々木康雄 ..	6	● 追悼 岸部俊彦先生 中鉢明彦	15
・ 「地産地消」に噛み付く 三浦一樹 ..	7	● 今日の診察室から③④ 児玉 光	16
・ 地産地消のすすめ 肥田野文夫 ..	8	● ナイトキャップ.....	17
● 会長レター③ 検診、行きましたか？		● 編集後記.....	18
佐々木範明 ..	9	● 表紙説明.....	18



煙 草

笹尾医院（五城目町）

笹 尾 知



こととは思えない。

我々は小学校で校長先生が教育勅語をうやうやしく朗読するのを聞いた最後の世代だ。お盆（？）に勅語をのせ紫の袱紗（ふくさ）をかけ、教頭先生が頭上にかかげて運んでくる。校長先生が厳かな口調で奉読する間、生徒達は頭をさげていなければならぬ。わけも分からぬ文言を聞かれ、じつとしていられない幼い子供たちは前の子供をくすぐったりしていた。道徳教育という意味での教育勅語はあまり役に立っていなかったと考えられる。

嘘をつくな、人の物をとるな、人を傷つけるな、弱いものいじめをするな、というような原則的なことを家庭でも学校でも教えこむのが大切だと思う。

以前は、地方自治体が大きな事業をやるため国の支援を必要とする時には、各省庁に陳情に行った。それがあまりにも激しかったため陳情禁止ということとなり、お友達作戦となってきたのであろう。親しければ親しいほど、多額の税金を使う仕事

は頼まれても断るべきである。

いくら弁解しても一緒にゴルフをしたり、酒を飲んだりしているところを写真にとられたりしては信用されないのがある。たりまえである。

総理大臣という絶大な権力は、顔もしらぬ名もしらぬ人達の投じた一票の上になりたっている。であり、その人達の期待を裏切らないでほしいと思う。

私もこの前、飲み屋さんで人の煙草を頂戴して吸ったが、法律違反にならなかった。加計学園騒動のおかげである。昔は五城目町でも煙草を栽培していた。煙草の葉は長さ30センチ以上もある大きなもので、茎の高さは子供の背より高かった。ついた葉の枚数を専売局の役人がきて、きちんと記録したという

国会が終わり受動喫煙防止法案が上程されず流れてしまった。ほっとしている人も多いかもしれない。小さい一杯飲み屋さんでも店内では煙草を吸えないとなると、商売上がったりとなってしまう。一番安心したのは愛煙家の議員さん達だろう。

昔は役場の会議でも、机の上にはアルミ製の灰皿が必ず並べてあった。私も会議に行く時は、ポケットに煙草とライターが入っているか確かめてから出かけたものだった。時々ライターが入っていない時もあったけれど困ることはなかった。隣の人が必要火を貸してくれたからである。あまり議論もない形式的な会議では、煙草が結構役立つのである。吉田茂総理大臣はよく太い葉巻をくゆらせていた。相手を煙にまくつもりだった。

たのかもしれない。

受動喫煙防止法案がお流れになってしまったのは加計学園騒動が起きたためである。そのため肝腎の法案の審議が大幅に遅れ、参議院ではゼロ防止法案の委員会審議も行わず本会議を開いて可決成立させてしまった。金田法務大臣は厳しい質問に答弁せずに済んで、どんなにか安心したことかと思う。

森友学園騒動から発した安倍さん夫妻の脇の甘さが原因と考えられる。幼稚園の子供に教育勅語を暗唱させ、「安倍総理大臣、万歳」と叫ばせるのを見て、立派な教育をしていると感心し、名誉校長になったり、100万円を寄付それも郵便振込の用紙に「安倍晋三」と書いて横線で消したりするのは、長い間政治の世界で暮らしてきた人のやる



話を聞いたような気がする。出荷するときはその枚数と合っていないければならない嚴重なものだったらしい。

戦後すぐの頃、煙草の葉が配給になったことがあった。乾燥した葉っぱを厚さ3センチくらいに固めたものだった。我々子

供は父の吸う煙草をその葉っぱの塊から作らされた。なぜそんな物があつたのか分からなかったが、病理の標本を1ミリの何

分の1かの厚さに切る刃物があつて、それで葉を刻み煙草を巻いた。蜂蜜を薄めて霧吹きでかけたりして味を調整した。火



遂に酒も飲めなくなったか

浅利整形外科医院（八郎潟町）

浅利 正雄

酒を飲み始めてから60年以上、体調をくずして何回か禁酒したことがある。

医学部の学生の頃、胃腸症状があり十二指腸潰瘍と診断された（後年内視鏡検査で潰瘍はなかったとのこと）。急性胃炎だったのか腹痛は耐えられない程強くなかったが、吐き気が強く食事ができなくなった。治療（内服薬）を続けながら酒、たばこ、胃に良くないと思われるものは全て止めた。コーヒーも未だに

ほとんど飲まない。禁煙は、まがりなりにも続けているのは幸いなことであつたが、回復後、食欲は旺盛で体重が52kgから卒業時は75kg、湖東病院に来た時は80kgになっていた。酒だけは

飲み続けていて量も増えていた。糖尿病も発症、運動を主に何とか体調は保っていた。

昨年2月、アルコールによると思われた低血糖で救急搬送されてから禁酒したが、8月から、ちよつと一杯、のつもりから飲

の通りがよい丁度良い硬さに巻くのには技術を要したのである。完成品は味見するのが職人の習わしなので、我々子供も煙草の味を覚えた。

普通の紙巻き煙草が出回るようになってからは、この仕事も無くなって、煙草とは大人にな

みだし、日本酒3合以上、量も回数も増えていった。特に月曜日は食欲がなく、朝食を流し込むようにしてとっていた。

5月30日、仁政会杉山病院の評議員会のあとの懇親会で酒を2合くらい飲んだが、食べ物が通らなくなり水を飲んでもまもなく嘔吐して出してしまうようになった。ビジネスホテルに宿泊したのだが、低血糖、脱水症も心配で、飲もうとしても出てしまうことが続いた。不安であつたが、救急患者でもないし朝まで我慢した。

翌日、いつも内視鏡検査を受けている大窪内科へ行つた。すぐ内視鏡室で検査してもらつた。食道の手術後の再発、入院手術かと頭をよぎり、いよいよ

るまで遠ざかつていた。大学生になってからは教室、電車の中、喫茶店、映画館、道路を歩きながら吸ったりして、吸わない人には迷惑だっただろうと思う。

50才を過ぎた頃、禁煙した。医者としてはやはり煙草は吸わないほうが良いと考える。



まだまだ…がんばろう浅利先生！（大久保の祭り）

おさらばかと覚悟をきめていた。内視鏡の検査で食べ物が出まわっているとして、太い内視鏡に換えて肉片を2、3ヶ摘出して楽になった。以後、肉は食べないようにとのこと、又、禁酒している。

酒は適量であれば百薬の長とか。前日本相撲協会診療所長・林盈六先生は日本酒1合5勺と

決めているという。長い酒のつき合いの笹尾先生は晩酌を止めたといっている。医師会とかいんな会では今まで通り酒を楽しんでいるようである。禁酒数

回の経験から私にはとても無理なようである。まあ、アルコール抜きで暮らしも体調が良く、我慢できそうである。自信はな



私のふるさと

井川町診療所（井川町）

伊藤 貞 男

私は、静岡県の浜名湖のほとり、「新居町」に生まれ育ちました。今は平成の大合併により湖西市新居町になりましたが、少し前までは浜名郡新居町浜名という地名でした。

この町は遠州灘と浜名湖に挟まれた交通の要衝で、江戸時代には宿場町として発展したところ。町には人物改めがとりわけ厳しかったことで有名な「新居の関所」があり、主要街道では現存する唯一の関所です。国指定重要文化財、国指定特別史跡にもなっています。多くの大名は参勤交代でこの新居

宿を利用し、本陣3軒、旅籠25軒があり、それはそれは活気に溢れていたそうです。

子ども時代の私は、その歴史的意義がどれほど貴重なものかも知らず、層状に作られた珍しい瓦を盗るために、屋根に上がったたりして遊んでいました。あの頃は、今とは比べものにならないほど子どもの数も多く、管理する町の人々にとって、どんなにか腹立たしく大変なことだったでしょう。

現在、NHKで放映されている『井伊直虎』の舞台、「井伊谷」は浜名湖を挟んで反対に位置し

ます。

また、新居町は、浜名湖や遠州灘で「漁」を生業としてきた漁師町でもあります。

カツオ、シラス、アサリ、スズキ、クルマエビ、海苔などをはじめ、魚類444種、エビ類53種、カニ類97種、貝類123種と豊富な魚介類に恵まれ、多くの人々の暮らしを潤してきました。名物のウナギは激減し、浜名湖産のウナギはほとんど見ることができなくなりました。

私の小学校時代、現地で「めっこ」と呼ばれていたウナギの幼魚を捕まえて、お小遣い稼ぎをするのが流行っていました。「めっこ」は、2月頃から4月頃にかけて太平洋から浜名湖に遡上してきます。新月などの大潮に乗って遡上するようで、夜中に遠州灘付近の河口湖で、水面を泳いでくるシラスウナギの幼魚を、ガス燈の灯りで呼び寄せて網で掬うのです。わずかな量でもそれなりのお金になり、子ども時代の大切な現金収入でした。

私の少年時代は、多くの人々



国花苑のバラ

が貧乏でしたが、遠州灘や浜名湖で真つ黒になりながら、一日中、魚や貝を捕って過ごし、高い近くの山に登っては山桃やアケビ、椎や栗の実を求めて歩き回る日々でした。毎日が空腹との闘いでしたが、正月の雑煮、5月の節句の柏餅、盆踊りや秋の収穫祭のお祭りなど、ほのぼのとした温かい思い出として甦ります。

私は、18歳の春、名古屋大学に入るために故郷を出ました。実現可能かどうかともわからない多くの夢を抱えて、頼りにできる人もいない、取り立てて優れた才能もない青年にとって心許ない旅立ちでした。挫けそうになったとき、私の心を支えてくれたのは、故郷の温もりだったように思います。

特集 地産地消について考える

かつて某新聞に、「〇〇スーパードライと唐揚げばかり口になっている地域は100%減る」といった記事が載りました。人口減・収入減に悩む地方は、せめて口にするもののくらい地元産を優先して地元へ金を回せ、雇用を守れ、ということのようです。飲食物に限らず、文芸やスポーツなど、何でもご随意に。発行は真夏。熱い一筆を宜しく。

以上のようなお誘いで85号の原稿募集を開始しましたが、どうもしっくりこない。頂いたエッセイで何とか様になったようには思いますが…。



人の地産地消について

藤原記念病院（潟上市）

東 紘一郎



地産地消というのは、われわれがものを消費するのにあたって秋田県で生産されたものを優先しようということでしょう。そうすることによって、輸送にかかる経費が削減できるし、地域経済を多少なりとも活性化でき、また、農産物であれば新鮮

で比較的安全なものを手にするものが出来るという利点があります。つまり、それは、グローバル化は良いことだという先入観を持っている人々には受け入れがたいかもしれませんが、一種の反グローバル化ということになります。



月山神社に「大久保お祭り音頭」の踊り奉納

話は違いますが、人口減少によって存続が困難になると予測される自治体を「消滅可能性都市」と呼び、2040年までに全国約1800市町村のうちの約半数がそれに該当すると発表され（日本創成会議2014年5月）、波紋を呼びました。秋田県では、大潟村を除くすべての市町村が消滅可能性都市に該当するとのこと。

このように人口の減少は急な対策を要することですが、それは要するに秋田で生産された（出生した）人が秋田で消費されて（働いて）いないということが原因のかなりの部分を占め

ています。人に関しては、地産地消が望まれるほどには達成されていません。

この場合、特に若者の県外流出が問題になるでしょう。優秀な若者が県外の大学などへ流出するのをどう食い止めればいいのか。優秀な人材の流出による経済的損失は大きいものだと思います。魅力的な大学を作れば良いという人もいます。確かに秋田の大学には不満足な分野も少なくなく、農業県なのに農学部がないのはどういうことかという声もあります。方向を間違えて英語学校のようにしてしまうと、学問を担える言葉に日本語を育て上げた先人たちの苦勞を無にするだけでなく、今度は卒業生の県外だけではなく海外流出を心配しなければなりません。教科によつては小学校から英語で授業が行われるフィリピンでは、医療従事者の海外流出によつて医療が危機的な状況になっているという話もあります。

秋田に残っても良い働き場所がないという話はよく聞きます

す。良い働き場所がなければ作ればよいのですが、なかなか難しいようです。東京一極集中には経済的な利益が大きいので、何の規制もせずに放置すれば、

人口は地方から東京へ流れていきます。秋田県としては人口流出、ひいては消滅を防ぐためには、どのような規制を考えればよいのでしょうか。



人生を学ぶ…

「祭り」と地酒」

ハートインクリニック（潟上市）

佐々木 康雄



「今日の酒で一番まずかったのは御神酒だ」な「んだんだ」と若者たちが飲んでいると、「これこれ、神社でそんなことをいうものではない」とおじさま方がたしなめた。5月5日、大久保月山神社例大祭の神輿（みこし）で汗を流し、社務所で行われた直会（慰労会）の席である。

今年の祭りの実行責任統前はわが上町。昨年師走に盛大な儀式を経て前の町内から統前を受けた。そして5月本番である。従来は昔の2級酒の熱燗（あつくあん）がテールに並んでいたが、上町は酒肴担当委員の提案で純米吟醸酒

7升を奮発した。「少し高くても爛付けが必要ない。手伝いの女性たちも楽できる」が表向きの理由で、そのくせ神殿に奉納した御神酒は2級酒だったのである。それで直会の献杯をしたから若者たちが「んだんだ」といったのだ。

清酒の消費量は年々減っている。だが37の歳を有する秋田は東北で今も1位、60%以上米を削る純米吟醸の消費量も宮城を抜いて昨年1位になった。秋田でも酒は量から質に変わり、しかも県内産が好まれている。日本酒は地産地消の代表格だ。



大久保祭典
（背の1は8統前のうち第一の意）

「繰り返すなえ（地震）」の形か家の裏の電車3両今日も動かず「これは当院に男鹿線で通院していた老婦人の作だが、6年前の東日本大震災では、男鹿半島に巨大な石油備蓄基地があるのに燃料で苦労した。飼料もパルプも牛乳も仙台経由だったため品薄で、秋田にあったのは米と魚と酒だけといわれた。米トランプ政権を筆頭に世界

には行き過ぎたグローバル化に反対する声が広がっている。人件費をケチって企業が海外に生産拠点を移した結果、自国内で仕事が減り消費も減った。賢いロボット導入も同じ悪循環を招くといわれている。

昔は地方の殿様が京阪から物

を買い、江戸屋敷へ金が流れた。今も地方住民はコツコツ貯めた金を東京デイズニーで使い、進学就職も東京へ一方通行で「都民ファースト」などと小池都知事をいい気にさせている。地産も地消もへったくれもない。

先日、スウェーデンを旅してきた知人が語った。街並みがきれい、午後4時には仕事から帰る人で道路が混む、公園で日光浴をしている人が多い、日曜の商店は全て休み…。日本でも働き方改革によりやとと罰則付きの長時間労働規制が導入されつつある。「いつまで続くぬかるみぞ」といわれてきた長時間労働と過労死、大量生産・大量消費の国から脱却できるか。少なくて働いて少なく使う地産地消型ライフがやってくるか。

冒頭の若者らの話を友人の酒屋にしたら曰く「祭りや祝い事に奉納する酒は2本が相場だが、これからは上質の地酒1本でいい。美味しい酒を飲んで地元で金を回し、楽しく年を取るのが正しい」人生を学ぶがモツキリ屋とはこのことであつたか。



「地産地消」に噛み付く

藤原記念病院（潟上市）

三浦 一樹



ひとこと余計なことを言わずにおれない性分で、一笑に付されるのを覚悟でお題の「地産地消」に噛み付きます。

「地域生産・地域消費」がどうして「地産地消」となるの？

もともと私は「生産者」に対しての「消費者」という言葉にはなんだか権利意識や圧力団体が纏わりついているような気がして嫌いでした。「消費」という言葉にも「浪費」や「欲にほだされて費えつくす」という語意を感じるのです。きっと「エネルギー消費」というような使われ方のためだと思っています。

その「消費」ですが、江戸末期から明治の時代に西洋の哲学や人文学を広めた啓蒙思想家である西周により consumption の訳語として新しく創られた用語だそうです。ピコ太郎が「ペ

ン」と「アップル」を合体させてそれぞれの語が持ちあわせていないイメージを付加したように、西周は consumption という言葉が持つ多様な意味合いを「消す」と「費やす」に代表させて「アーンッ」して「消費」を造語したのでしょうか。その当時の consumption の語義は、呼吸器科医の立場では「結核」のことで、体力消耗でヘロヘロな状態を言いました。もちろん物を食べるという意味もありますが、それは eat というよりは「ががつべろり eat up」のイメージなのでした。しかし言葉というのは、古いシャンソンの「詩人の魂」にも似て、町に流れるや創作したひとを離れ、それを口にする人々や時代がその意味を補い追加し徐々に変わっていきます。ですから、

consumption の持つ「消耗、破壊、肺病」などという古臭い否定的な意味合いではなく現代の日本で使われる流通としての「消費」の意味を一応は認めましょう。しかしどうしても「地産地消」はただだけない。センスがない。この「消費」を、ピコ太郎の承諾もなく「消」と「費」に分けて、しかも「費」でなく「消」を残すとは「何事だ！責任者出て来い」と鼻穴を広げたいところですが、どうやら最初に「地消」などと言い出したのは秋田県人らしい。あんまりこれにつつかると後ろから車をぶつつけられそうな気がするのでこのくらいにします。それでも本意を入れて「地産地商」くらいにはして欲しかった。せめて「地産地奨」とか「地産地賞」、「地産地匠」なら許せるのに。

私事ですが、終戦後12、13年して物心ついた頃、生まれ在所は田舎でしたが家の界限には屋号で呼びあう米屋、味噌屋、酒屋、糍屋、饅頭屋、駄菓子屋、納豆屋、豆腐屋、林檎屋、下駄



屋、鍛冶屋、木工細工屋、金物屋、綿屋、畳屋などがありました。規模は小さいが多様な「商い」があり、欲が深くなければ不自由なかつたと想像します。まだ皆それなりに貧乏で自然の恵みを頂く副業もして暮らしていました。星霜移り人は去り、「便利」、「簡単」、「安値」、「お得」がすべてを蹴散らし、店はスーパーやコンビニに取って変わられて「消」滅し、今やどこにもあるような特徴のない町並みが残っています。もう祭りに舞台は立ちません。「地産地消」や哀れ！



地産地消のすすめ

杉山病院（潟上市）

肥田野 文夫



地産地消がいわれだしたのはいつのことなのか、バブル狂乱期の後、失われた十年に象徴される住専問題やデフレスパイラル、価格破壊で経済も人の心も自分らしさという美名にごまかされた、ただの「自己中（わがまま、目立ちたがり）」の異常な増加ですっかり荒んでしまいました。

そして「顔の見える」がキーワードで〇〇さんの作った野菜などが脚光を浴びた時代がありました。輸入食品（特に中国産）はどこか信用できないところがあり、確かに地元産の食材を生産地で消費すれば安心安全そうだし、輸送面から考えても「新鮮そのもの」ですが、新鮮と高品質は同義ではなく（食の評論家の山本益博より）単に販路を開拓・拡大出来ないという営業

努力・能力不足の言い訳に過ぎないかもしれない、現に地産したはいいのもの、需要がなく過剰生産で大量廃棄・大暴落した商品、地方もあると聞きます。

秋田県の人口は減少の一途を辿り出し、年間1万人近く減っていけばいずれ県全体が限界集落になります、幸いなことに私の年代はその頃にはとくに冥土に旅だっています。で、せっかくだから人も地産地消したらいいのではという話です。

哲学によれば人間の構成要素は知能・容貌・人格ですが、人格は、最初はよく見えても必ず悪くなる（知能も容貌も衰えてはいくものの人格ほど急速ではない）し、日本各県で性格の善し悪しの割合が変わるはずもなく、秋田は美人の産地で容貌は全国では圧倒的に有利になりま

す（実は美男子もなかなかです）。さらに本県は小・中学校の学力テスト（②学力ではない）が日本一ですし、名門大学進学率が高くないのは謎ですが、知能ももしかしたら高いのです。ただ「人の知性は簡単に顔に出てしまふ」は古今の名言が教えるところで、美しさと知能が一致するわけではないのは当然です（だから、思い込みや妄想がなければ顔に騙されるはずはないのです）。奥羽線普通電車に乗ると10代後半の秋田美人・美男子がひしめき合っていますが、このうち頭も見た目も良い地域の将来を担うはずの若者が、卒後すぐ東京などの中央に出ていってしまうのは残念でなりません。なんとか地産地消でくっついてもらい、才色兼備の次世代を残してもらいたいものです。

市や県の公共機関の婚活を目的とした要するにお見合いパーティはサクラや動員も多いかもしれませんが、期待したようにはならないでしょう。残り物に福があるとも限りませんし……。どこかの政党が「希望の行きわたる国に」、小説家が「この国には何でもあるが希望だけがない」といいました、希望を持ちすぎるから最後の絶望が深くなるのです。以前うちの病院でも独身男女の会（仮称）で妄想的な上役が講演（？）し、目玉の女性（当然美人）を秘かに指定するなどありましたが、お節介といえそうですが狂気の沙汰です。仮に一緒になったからといって「明るく元気に仲良く」が「暗く静かに一人」になるまでにそう時間はかかりません。それを「あきたびじょん」にしてもすぐに「あんべわるい」になります。人も商品も地産地消といっても相手のあることで物事は都合良く運ぶはずはなく、やはり人生はあきらめが肝心とまたまた悟りの境地に至るのです。



祭りも地産地消だ（大久保祭典）

会長レター

3

検診、行きましたか？



男鹿潟上南秋医師会会長
佐々木医院（潟上市）

佐々木 範明



6月22日、当医師会の総会が秋田市内のホテルで開催されました。電車の都合で早めに会場に到着したため、一番乗りでした。会長席に座りながら、新人会長としての一年を振り返ってみました。不慣れな自分でしたが皆様のアドバイスとサポートを受けて、なんとか乗り切ったかなと安堵の気持ちと、また一年という落ち着かない気持ちで気分は複雑でしたが、議事は滞りなく承認をいただき、会は無事終了いたしました。皆様、また一年、よろしくご協力をお願いします。

さて、春の田植えが終わるこの時期は検診の季節です。皆さん、検診にはいきましたか？

高血圧も糖尿病も癌も予防・早期発見がとにかく大事。秋田県は以前から癌死亡率が全国ワーストであることが言われていました。高齢化の影響を除いた年齢調整死亡率でも本県は男性2位、女性3位です。ですが、検診受診率は年々上がってきており全国では中位くらいです。となるとあとは検診後の生活習慣指導をしっかり受けて、「予防」が鍵になります。

医学生の中の頃のことだと思いますが（なので35年くらい前）、遺伝に関しての授業の後、友人たちと先祖は農耕人だったか狩猟人だったかというような他愛も無い話で盛り上がったことがあります。私は狩猟人系ということになっていましたが、ここに

に帰ってきて庭仕事などを好んでやるようになってからは、どうもそれは間違っていたなと感じています。晴れた休日は何かしなくてはとソワソワしますし、雨音がする休日の朝は「今日は仕事が無いな〜ゆっくりだ〜」と感じていつまでも寝床に居られそうに感じてしまっています。

自分のご先祖がどうだったのか、ホントのところは遺伝子検査でゲノム（全遺伝情報）解析でもしないと分からないのでしようが、この遺伝子検査は医療の世界ではもうすでに一部で実用化されています。先日新聞にも、アルコールに強い体質の遺伝子を2種類持っている人は「尿酸」を体内に溜め込みやすいので、お酒の量だけでなく食事の内容も気をつけないと痛風になりやすいという記事が載っていました。癌も含めどんな病気になりやすいかが分かり、それならば日常生活ではこんな事に気をつけようということに繋がるのですから、遺伝子検査は究極の予防医学ということになります。ただ自分の未来が分かりすぎて予防的に手術を受けてしまったり、検査情報のために保険加入の際に不利益を被ってしまうなどの今までに無かった問題も起こってきています。

美郷町のラベンダー園



理事会

平成29年6月13日
土崎 ホテル大和

消防署から患者搬送に關する要望。救急出動の10%を占める転院搬送は本来業務の妨げになる場合もあり、緊急性や専門性の高い症例等に絞ってほしい。医師同乗の有無に拘らず搬送依頼書を書いてほしいというものだった。また書類が増える。

今年度の総会に向け各議題を確認。事業費で最も高いのは会報『おだいじに』の発行。「医療と福祉を考える集い」の経費は予算の半額程度と他の郡市医師会に比べ活動ぶりが今ひとつ。男鹿、天王、大久保、五城目・八郎潟の4地区交互の開催など複雑な事情はあるが、もう少し広報宣伝を強化したい。

男鹿潟上南秋医師会

定例総会

(平成29年6月22日午後7時 ホテルメトロポリタン秋田)

最初に佐々木康雄議長が総会成立の確認と開会を宣言。就任からちょうど1年になった佐々木範明会長が会長レターのように

な内容の挨拶をした。

議題。28年度会務及び事業報告、会計決算、監査報告等、続いて今年度事業計画案、予算案、会務分担案等を審議し、全て了承され、総会は終了した。

なお、29年5月1日現在の会員総数は73名。開業会員29名、A会員(管理職医師)7名、B会員(一般勤務医)32名、敬老会員5名。敬老会員は適応年齢を県医と同じく77才から80才に引き上げるようになった。浅利先生の次の会員からとなる。

懇親会。「いつも最長老ということで壇上にあげられる」と苦笑いの笹尾先生の味なご挨拶で乾杯。男鹿みなと市民病院の下間院長が語る医局旅行の話題で盛り上がった。前日に大型コンテナ船と衝突した米イージス艦を見てきたらしい。9時半、神田前会長のご挨拶でお開き。



神田前会長シメの挨拶



笹尾先生の乾杯のご挨拶

『C型肝炎撲滅への道標』
脂肪肝合併の糖尿病治療を含めて

秋田大学大学院医学系研究科
消化器内科学・神経内科学講座
准教授 後藤 隆 先生

日時▼平成29年4月13日
場所▼ホテル大和

近年、C型肝炎の治療は飛躍的に進歩している。2014年に米国で出された論文では、新規のC型肝炎患者が発生しなければ自然経過でもC型肝炎患者は徐々に減っていくと予想されているが、インターフェロン・フリーの治療を行うことで2035年ころには米国ではC型肝炎は稀な疾患になるだろうと予測されている。日本では医療費助成制度があるため、ここ5年から10年でC型肝炎は減っていくのではないかと考えられる。

C型肝炎ウイルス（HCV）は血液・体液を介して感染して急性肝炎になるが、急性肝炎自体はほとんど症状がなく経過する。20〜30%の人は自然に治癒し、HCV抗体は陽性でもRNAは陰性であり、この人たちは肝硬変・肝臓がんは生じない。急性肝炎の60〜80%が慢性肝炎に移行し、これを放っておくと肝硬変、肝臓がんへと進んでいく。これまでのインターフェロン治療では肝硬変の患者は治療対象とならず、慢性肝炎のうちに出来るだけ治療して肝硬変・肝臓

にしないようにしようという考えだった。今のインターフェロン・フリーの飲み薬の治療では代償性肝硬変の人まで治療対象となつていく。発癌率・癌の予防という観点では少しでも早く、肝硬変が進まない状態、線維化が進まない状態でウイルスを消す治療をするということが重要になってくる。また、肝臓の硬さを評価することが非常に重要になってくる。肝臓の線維化を評価する検査として血液検査によるトランスアミナーゼの数値のほかに、腹腔鏡での肝臓表面の観察、肝生検による組織の観察があるが、最近の非侵襲的な検査法としては血液で肝臓の線維化マーカーを測定する検査や、エコーやMRIを使って測る検査がある。

2014年のデータで、本邦における肝硬変の成因で一番多いのはC型肝炎53%、2番目はアルコール性18%、3番目はB型肝炎12%で、これが三大原因である。その他の原因11%の中に非アルコール性脂肪肝炎（NASH）という病態があり、メ

タボの人から肝硬変・肝臓になる人もいることが注目されている。NASHのリスクファクターとしては肥満や高脂血症や糖尿病が挙げられるが、最近、糖尿病治療薬のSGLT2阻害薬が肝臓の脂肪化や線維化を抑制出来るという動物実験でのデータが発表され注目されている。

C型肝炎を治療するには遺伝子の型が1型か2型かを評価して治療する。日本では1b型が70%、2a型が20%、2b型が10%である。1b型はインターフェロンが効きにくいタイプで、インターフェロン・フリー治療が優先する。2型はインターフェロンが効き易いためインターフェロン療法を優先する。薬剤選択を間違わなければ3か月または4か月の治療で、9割以上の人でウイルスを消すことが出来る時代になっている。B型肝炎・C型肝炎に対してインターフェロン治療、インターフェロン・フリー治療、核酸アナログ製剤治療には医療費助成（原則月1万円を超える部

分について）が行われている。

秋田県では患者さんとかかりつけ医、行政、肝炎専門医療機関、肝炎診療連携拠点病院との間で連携して治療を進めて行

こうとしている。C型肝炎の患者さんをいかに治療の土俵に上げてやるかということが今後、重要だと思うし、是非そうなるようご紹介したい。

『喘息診療の最新の話題』



秋田大学大学院医学系研究科
循環器内科・呼吸器内科学講座
講師 佐野正明先生

日時▼平成29年6月15日
場所▼ホテル大和

喘息は気道の慢性炎症性疾患であり、気道の炎症がリモデリング・気道過敏性を惹起し、さらに気流制限に関与して最終的に喘息症状を引き起こす。本日は最近注目されている、気道炎症の評価法である呼気NO濃度と、気流制限の評価法である強制オシレーション法について解説する。

健常者、気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）患者の呼気のNO濃度をみると健常者、COPD患者では低値だが、

気管支喘息患者では高値を示す。喘息診断に用いる呼気NO濃度のカットオフ値としては、吸入ステロイド未使用の新患者で、発作性の喘鳴などの喘息を疑わせる症状に加え、呼気NO値が22ppb以上ならば喘息の可能性が高く、37ppb以上であればほぼ確実に喘息と診断できるとされている。

強制オシレーション法は、安静呼吸時に大きさの異なるいくつかの周波数の波を気道内に送り、それぞれの周波数ごとの呼

吸抵抗を測定する検査法で、中でも周波数5の時の呼吸抵抗と周波数20の時の呼吸抵抗を測定し、それぞれの周波数による呼吸抵抗の変動パターンで健常者、気管支喘息患者、COPD患者を鑑別する方法である。

喘息予防・管理ガイドライン2015の主な改訂ポイントを解説する。前回の2012年のガイドラインと比べ、喘息の定義、管理・治療の目標、喘息診断の目安が簡素化された。

長期管理薬（コントローラー）としては、ICS（吸入ステロイド薬）／LABA（長時間作用性吸入 β 刺激薬）配合剤において「SMART療法」という名称が表記され、症状悪化時に追加吸入することにより症状が安定し、増悪頻度を減少させるとした。また、新しいICS／LABA配合剤の低用量・中用量・高用量の目安、長時間作用性吸入抗コリン薬（LAMAs）のスプレーや抗IgE抗体製剤も追記された。ICS／LABA配合薬の利点は、吸入操作回

数が減少しアドヒアランスを向上でき、気道炎症を抑制して症状が安定し、増悪頻度が減少することである。

難治例への対応で評価項目が一覧化され、フローチャートが改訂された。

急性増悪（発作）への対応としては、軽度以下の発作時、短時間作用性吸入 β 2刺激薬の吸入に加え、SMART療法実施中の患者では家庭での対応として定期吸入に加えて、頓用としての追加吸入の使用が可能であることが追記された。

また、喘息とCOPDが合併している喘息COPDオーバーラップ症候群（ACOSまたはACO）の鑑別・治療について追記された。治療は、吸入ステロイド薬を中心として、長時間作用性 β 2刺激薬や抗コリン薬を併用することが示されている。

咳症状の持続期間で、3週間までを急性咳嗽、8週間以降を慢性咳嗽、3週間から8週間までを遷延性咳嗽と呼ぶ。3週間

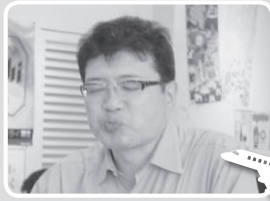
までは感染性咳嗽の割合が多く、8週間を超えると感染性咳嗽の割合は低くなる。遷延性・慢性咳嗽には、咳喘息、アトピー咳嗽、副鼻腔気管支症候群、胃食道逆流症、感染後咳嗽、慢性気管支炎、高血圧治療薬のACE阻害薬による咳嗽などがあり、詳細な問診、症状、検査に

より疾患を想定し、治療効果を見定めることが大事である。



吉田賢志(会員) 記者

医局旅行記



男鹿みなと市民病院(男鹿市)
秋元 正年

毎年6月の土日に当院では医師と薬剤師の医局旅行を実施している。2年前は日光、昨年は仙台近郊を訪ね、食べ、飲み、しゃべり、寝て、見て、歩いて楽しく過ごしてきた。今年の幹事は関先生と米澤先生である。

平成29年6月16日(土) 朝8

時半に14名が秋田空港に集合し羽田空港へ飛行機で発った。出発ロビーで筆者を始めアルコールに手を伸ばす者ちらほら。11時ころ羽田に着き、貸し切りバスで高速道路を30分ほど走り横浜中華街へ。南門シルクロードの広東料理専門店「招福門」で生ビール、青島ビール、紹興酒、ウーロン茶などを片手にヴォリュームたっぷりの料理に舌鼓を打つ。横浜は梅雨入りとは名ばかりの快晴だった。

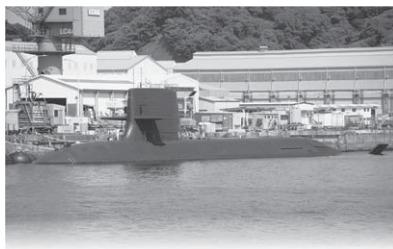
13時半に横須賀港へ着く。お目当ては昨年「プラタモリ」で話題になった軍港クルーズ。この日は、入港していれば見物客

で賑わうという人気の原子力空母「ロナルド・レーガン」が出動中で、艦船の数は通常の半分とガイドから説明があった。

また、この日

未明に米海軍のイージス艦が伊豆半島沖で衝突事故に遭い、横須賀港へ曳航中だが、一般人向けには公開できない場所に係留されているとのことだった。それでも日本の海上自衛隊基地と米海軍基地に挟まれた水路を行く船に乗り、至近距離からイージス艦を始め米軍基地に間借りし停留している3隻の海上自衛隊潜水艦、退役して処分寸前の最後の木造掃海艇、日米共同で造られた秘密の島「吾妻島」を見られたのは貴重な体験だった。

居並ぶ艦船を眺め、ある講演



横須賀軍港



戦艦「三笠」と東郷平八郎

会で聞いた吉田茂元首相の言葉「自衛隊が国民から歓迎されちゃはやされる事態とは、外国から攻撃されて国家存亡の時とか、災害派遣の時とか、国民が困窮し国家が混乱に直面している時だけである。(中略) 君たち自衛官が日陰者である時の方が国民や日本は幸せなのだ」：国防に関わるものが目立っているのは平穏な状態ではない、ということだが、それを思い出していたら予定時刻を過ぎていた。

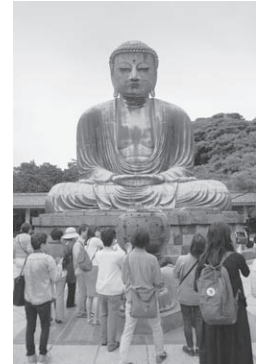
続いて記念艦「みかさ」を見学。日露戦争の連合艦隊旗艦を



「みかさ」記念艦にて



宿で宴会



鎌倉の大仏さん



150分待ちのアジサイ寺にて

者は12分おきに長谷駅ですれ違う江ノ電を何枚も撮った。

正午に鶴ヶ岡八幡宮の参道沿いの和食「御代川」へ。店の創業は古く、往時の文化人が描

いた屏風絵など多数でさながら小美術館。旅行を締めくくる同店特製の日本酒で心地よく酔い、13時出発。雨粒が落ちてき

た。横浜を過ぎ、湾岸道路の大黒パーキングあたりで大雨。羽田を15時25分に離陸した飛行機は16時40分に着地。秋田は抜けるような快晴で甚だ暑かった。

〈まとめ〉今回もまた駆け足スケジュールで横須賀軍港や紫陽花寺、大仏さんなどを巡り、偶然にも米イージス艦の生々しい事故にもちよつと触れられた。

関先生と米澤先生の企画、参加者全員のチームワークで楽しんできた。来年も斬新な企画の医局旅行を期待している。

ふんふんコラム

クマ

とにかく、熊だ。十数年前、檻で熊を捕まえ、大喜びで県に報告したら、なんと、無免許の捕獲は罪になるぞと逆に厳重注意を受けたおじ様たちがいた。そのころから県と警察は猟銃所持を厳しくし、申請に必要な診断書発行まで医師を制限した。

心筋梗塞で急逝した阿仁の知人の息子は、遺された高価なライフル数丁を当局に差し出すしかなかった。親の道楽を継ぐには面倒な手続きと膨大な金がかかるからである。こうしてマタギも一般の猟師も減ってきた。

かつては里山に熊が出ると猟友会が出動し数日内に駆除していた。今は会員がおらず、元木山や小泉潟など公園に熊が出たといつては立ち入り禁止である。

慌てた県は猟師を増やすため金を出すといたが、「俺たちハンターの誇りをさんざん傷つけておいて今さらなんだい。ポリ公はネズミ取りをやめて熊を獲りゃいいんだ」と近所の元猟友会員が怒っていた。(ふんころがし)

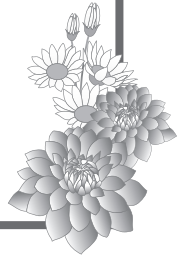
改造して保存されており、日本海海戦で被弾した痕も生々しく、司馬遼太郎の『坂の上の雲』の世界そのもの。当時に思いを馳せ集合写真を一枚。付近のポートマケットで海軍カレーの缶詰など土産を買い、17時ころ軍港に近いホテルへチェックイン。関先生が手配した海鮮料理店「魚藍亭」で夕食。横須賀市に住む関先生の先輩医師から「純米吟醸・積善超辛口」(長野県)の差し入れあり、カワハギ、マグロ、エビ、カニ等の近海物海鮮料理で空腹を満たす。秋田の酒に慣れた口に積善はやや辛かったが、さわやかな味だった。二次会は魚藍亭に近いドブ板通り。外国人が入り乱れていた。翌朝は曇り。朝の軍港周辺散

策中に、例の米イージス艦事故でまだ行方不明だった乗組員の捜索に当たる海上自衛隊潜水艦の出發を見送った人もいた。9時過ぎ、紫陽花で有名な長谷寺と大仏をめざしバスでいざ鎌倉。であったが、紫陽花お目あては我々ばかりでなく、逗子を過ぎ江ノ島と沖合のウインドサーフィンが目に入ったら渋滞に巻き込まれ予定を変更し鎌倉大仏(高德院)へ。うようよいる海外観光客の中に、履物を脱ぎ礼装で跪く参拝者がいた。半時後、江ノ電長谷駅近くでバスを降り長谷寺へ。ところが、「あじさい路の入場待ち時間150分」の看板になす術もなく、咲き誇る紫陽花を背に集合写真だけで境内を後にした。筆



追悼

岸部俊彦先生



去る6月14日、午前の外来診療中にJCHO（ジェイコー）秋田病院の石岡院長から電話で岸部俊彦先生が急逝されたとの連絡を頂きました。前週、たまたま肝炎患者さんの引き継ぎの件で秋田病院に電話を差し上げたのが先生との最後の会話になろうとは思いませんでした。

岸部俊彦先生は能代市の出身で、昭和56年に弘前大学医学部を卒業され、青森県内の基幹病院での研修を経て平成6年に湖東総合病院消化器内科科長として赴任されました。私は岸部先生より1年遅れて、平成7年に湖東総合病院に赴任しました。以来、先生が平成22年6月に秋

田組合総合病院に転任されるまでの15年間、内科医として一緒に仕事をさせて頂きました。その間、私は先生が患者さんや他職種職員に対して感情的な態度を見せることを目にすることはありませんでした。その実直な姿勢に裏打ちされた堅実な仕事ぶりは全職員から高い評価を受け、穏やかで物静かな人柄と医師としての高い力量に惹かれて多くの患者さんが先生の外来に集まっていました。岸部先生は大学から交代で派遣される若手医師との2名体制で常に50人以上の入院患者さんを担当しながら、消化器内科医として専門的な検査や治療に対応しておりました。

そのような多忙を極める日常業務の中で15年程前でしようか、当時の同僚の笹原秀明先生と一緒に、胃切除後などで胃瘻造設が困難な患者さんに対して実施可能な経皮経食道胃管造設術（PTEG）を秋田県内で初めて導入しました。私は秋田市であった講演会で偶然に国立がんセンター東病院総長からPTEGについての話を聴く機会がありました。PTEG造設は、かなり専門的な手技であるが今後の普及が期待されているとのことでした。講演を聴いた帰り道、岸部先生は、どこから情報を得て、この困難な手技に進取の気性を持って取り組んだのだらうと不思議に思ったことが思い出されます。

このように岸部先生が湖東総合病院の中で中心的役割を担い活躍の幅を大きく広げていく中、平成21年末に突然、湖東総合病院の廃止の話が持ち上がりました。秋田大学医学部の医局から矢継ぎ早に医師引き上げの

通達飛び交う中、副院長として私が何とか一緒に湖東に残って貰えないかと心から慰留したのは、岸部先生、只ひとりでありました。それは取りも直さず私が岸部先生を医師としての価値観を共有する信頼できる同志と感じていたからでありました。しかし慰留をお願いした時点で既に先生には大学医局からの撤退の指示が入っており、「申し訳ないけれども自分の意向だけではどうすることも出来ない」と話されました。その時の表情には無念さと同時に寂しさが入り交じっているように見え、先生の湖東への愛着の大きさを感ぜられました。それから転出までの数ヶ月間、多くの患者さんの引き継ぎに真摯に、そして責任を持って取り組んで下さいました。その後、秋田組合総合病院、更にJCHO秋田病院に転勤されてからも非常勤医師として私どもの病院の消化器内科外来を支えて頂きましたが、非常勤となつてからも

先生を希望して受診する患者さんの何と多かったことでしょう。奇しくも逝去された翌日の朝、外来案内に立っていた事務長が、ある患者さんから「今、岸部先生は何曜日に出ているんですか？」と尋ねられたとのことでした。

岸部俊彦先生、私だけではなく湖東の職員の多くが先生に最後まで湖東の常勤医師として活躍して欲しかったとの思いをもっておりました。先生の想い、そして思い出が今も息づいている。湖東病院をこれからも見守っていて下さい。岸部先生、どうぞ安らかにお休み下さい。



湖東厚生病院
(八郎潟町)
院長 中鉢 明彦



八郎潟町で開業して、15年になります。地域の方々に支えられてここまでやってこられました。これまで多くの患者さんに、運動、食事、アルコールやタバコなどの生活習慣の改善を勧めてきました。うまくいく場合もあります。以前はなかなか期待したとおりにはならないこともありえます。以前の生活習慣を継続して変えることは、簡単ではないようです。私もいつのまにかメタボ体型となり、血圧の薬も飲んでいました。昨年は還暦を迎えてきていないことを患者さんに勧め、指導することにはいささかの抵抗がありました。そこで、これまでの自分の生活習慣について振り返ってみました。

今日の診療室から 34



児玉内科医院
(八郎潟町)

児玉 光

【運動について】

もともと体を動かすことは嫌いではありませんでした。ずーっと以前はゴルフをしたり、バレーボールをしたりしていました。今はやっていません。ここ数年は、息子の部活（ソフトテニス）の練習や試合の追っかけをし、週1回程度はテニスコートの周りをウォーキングしていました。昨年6月で息子が部活を引退した後は、運動らしい運動はしなくなり、体重も少し増えてしまいました。今年4月から夫婦2人の生活となり、朝のラジオ体操や週末に夫婦でウォーキングするようにしています。先日、往復で1万歩近く歩いたときには、少し膝が笑ってしまいました。無理しないで継続したいと考えています。体重は今のところ変化はありません。

【アルコールについて】

若いころはたくさん飲みました。肝機能検査はそれ相応の結果でした。大学の卒業アルバムに、「週1回は休肝日を」と記した記憶があります。20年ほど前から、車で通勤しています。朝、酒臭くては車の運転ができませんので、原則として休診日の前日以外は飲まないようにしています。お酒は嫌いなほうで

はないのですが、お酒に弱くなったためか、飲むと眠くなってしまうようです。宴会では飲まなくても大丈夫になりました。ノンアルコールビールを重宝しています。肝機能検査もγ-GTPはずーっと正常値です。

【最後にタバコです】

いつ頃から吸い始めたかは忘れられました。学生のころ父から「タバコは体によくない、やめられなくなるから今やめなさい」と言われてきました（その父は、結局は禁煙できずにいました）。学生のころちょつとした願をかけ禁煙しました。半年後、思いは叶えられず、友人と飲んでいてついタバコに手を出してしまい、その後は禁煙前よりたくさん吸うようになっていました。十数年前、東京出張のため朝早くの新幹線に乗車したところ、急に不整脈を自覚し出張をとりやめました。開業を考え始めていたころでもあり、「このままではいかん、まだ死ねない」と思い、禁煙を決意しました。以後、禁煙は続いています。患者さんに、こんな自分の体験もお話しながら診察をしている毎日です。

次回は千葉内科医院の千葉裕一先生にお願いいたします。

ナイトキャップ

正しいジジイたち



たむら船越クリニック
(男鹿市)

田村 広美

秋田にもちよつと遅い梅雨入り宣言が出された後の最初の日曜日。6時に目が覚めた。

昨夜は特に理由はなかったけどマキシム・ド・パリを開けた。サクランボをつまみに、女房に桃ジュースのシャンパン割(ベリーニというカクテルらしい)を作り、彼女がグラス半分を飲む間に僕が残りを飲みながらテレビの映画『スペース・カウボーイ』を

見ていた。

ソ連時代の人工衛星がコントロール不能になり、昔の技術者たちが修理しに行くというストーリー。何よりもジジイたちが元氣なのがよい。クリント・イーストウッドのほかに、ドナルド・サザーランド、トミー・リー・ジョーンズ、ジェームズ・ガーナー。女医さんの目の前で見栄張って走りっこ、殴り合いのけんかをし、NASAの女性技術者をナンパする。自分たちを小ばかにしている若い飛行士たちには対抗意識丸出しだ。訓練中に若い連中から年寄り扱いされ、栄養ドリンクを差し入れられたお返しにベビーフードを差し入れてやる負けん気としやれっ気。まさに正しいジジイはこうあるべきだ。

予報は降水確率30%だが、外は青空。「よし、バイクだ」早々とクリニックへ行きちよつとだけ書類を書いて、Tシャツにバイクジャケット、靴、ヘルメット、手袋、準備万端で…エンジンがかからない。バッテリー?古いバイクだしな。なんだか出

鼻を挫かれるが、おじさんの人生にはちよつとくらしいのトラブルは付き物だ。昨夜のジジイたちだつてシャトルのトラブルを笑いながらクリアして地球に帰ってきた。バイク屋さんに電話して修理の相談をして…予定変更、床屋に行こう。一日幸せになりたいなら床屋に行け、っていうのはイギリスの諺だったっけ? 夏に向け少し短めにカットしてもらい家に帰る。台所周りを片付けまくっている女房が手を止めじつと見て言った。「すっかり白くなつたわね」「まあね。館ひろしや吉川晃司と一緒だよ」「どの辺が?」

先週参加した緩和ケア研修会では7割が研修医、24人の受講者のうち僕より年上の医者は1人だけ。一昨日のテニスの時もみんな年下だった。この頃気が付くと自分が最年長者という場面は多い。高校の仲間と久しぶりに飲んだ時には、8人中2人が早期退職して第2の人生をスタートさせていた。そういう年代なんだな。いつの間にか。

今月になり大腸がんの患者さんが2人、それぞれ男鹿みなど市民病院の院長SN先生、藤原記念病院の院長SK先生にお願いして手術してもらった。2人とも僕より少しだけ先輩。決して僕のお願いは断らない。頼もしい後方支援チームだ。まだまだ僕らに第2の人生は来ない。

夕方から雨。「バイクで帰ってこなくてよかったね」父の日に娘が送ってきたアラン蒸留所の限定品を味見している僕に女房が言う。「はい、できたよ。ひき肉と夏野菜のカレー」あー、カレーはダメなんだよ。今週こそは痩せるつもりだったのに。また出鼻を挫かれる。

あの諺の続きは、1ヵ月幸せになりたければ結婚しろ、だったっけ。いや1年、だったか? 少なくとも27年じゃなかったよな。来週こそは、バイクに乗るぞ。ちよつとくらいなら後ろに乗せてやってもいいかな…。(酔)

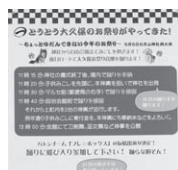
編集後記



獣医学部新設スキャンダルで「岩盤規制」という言葉が飛び交った。大学や学部の新設を野放図に認めてきた文科省が獣医学部だけ50年以上認めなかった頑固さは奇妙。獣医大関係者によると、「軍馬や農耕牛馬、家畜の激減で戦後は獣医が減り、獣医学部も何度か存亡の危機に陥った。だが、かなり以前からペットや人獣共通感染症の増加などで志望者は飛躍的に増え、受験も難関になっている」。岩盤といえは、厄介な規制で観光開発が進まぬ『国定公園』男鹿半島も同じか▼その半島から市民病院の面々が横須賀軍港に行ってきた。秋元先生の旅日記によると、たまたま病的に忙しかった▼50歳で禁煙したはずの笹尾先生、宴会では「一本、ある？」が口癖。酒の機会飲酒、煙草も機会喫煙か▼範明会長は総会で1年間を振り返り、会員諸兄姉のお陰で何とか職責を果たしてこられたと挨拶した。律儀によく頑張る会長だ▼豊かな自然の中で生まれ育ち、その故郷のぬくもりが心の支えになっているという伊藤先生。ボードレスに見えてもルーツの風景と風土は身体に刷り



明日の秋田を担う子供たち
あざやかな半纏姿がまぶしい



お祭りを告げる
大久保駅のポスター



みんな ありがとう 祭りより 君たちが好きだ！

込まれていると書いた作家がいた▼浅利先生からお酒を取ったら何が：いや、どうお付き合いますれば、と私たちには悩む▼「今日の診察室から」の児玉先生も健康維持に努力中のようで、医者鑑のようにも見える▼お題の地産地消に一樹先生が悩んでいた。それでも小説家志望の医師だけあって読後はすっと落ちる。肥田野先生は相変わらずの筆致だった▼61歳で急逝した岸部先生に捧げる中鉢先生の追悼文が痛ましい。ご冥福をお祈りする▼今回もナイトキャップ「酔」こと田村先生の洒落なエッセイ、吉田先生の生涯教育記事に感謝▼『どうせやるならやりすぎたい』：誘客を狙う別府温泉の標語に飛びついたのが、寂れゆく大久保の五月祭典で実行責任統前となつたわが上町。このお祭り初の半纏を

導入し、それを餌に若者を集め、台車で引くだけだった神輿は担ぎ、新作『大久保お祭り音頭』で踊り、行列先導の騎馬武者を子供神輿とバトンチームに替え、何より美味しいものを食べさせ、かくて例年30人規模の行列が今回は130人を超える前代未聞の賑わいとなった。今回の企画に冷淡だった神社総代らの岩盤規制の姿勢に対する若者らの反発と半纏による連帯感が大きい。蛇足ながら編集子作の音頭をご紹介します▼
①西に望むは寒風山 東に霊峰太平山 たまに熊でる元木山 ああ大久保音頭 ワツシヨイワツシヨイ 月夜見た ワツシヨイ：お祭りだ 月山神社
②渴のワカサギしじみとり ガンガン部隊に名を残す 魚と田んぼに支えられ ああ大久保音頭：③浮かれ柳の合併に 頭かきかき 神輿かき 明日は湯上花が咲く ④街をつらぬく奥羽線 ふるさと離れて武者修行 いつも帰って踊るのは ああ大久保音頭 ワツシヨイワツシヨイ：
▼たまに熊でる元木山、今年はいつも出る。後記までしつこく祭りの写真

お便りは 〒018-1401 潟上市昭和久保字町後173-42
ハートインクリニック 佐々木 康雄
医師会メールアドレス info@oknmed.jp



ラベンダー園の愛犬
ジョーン (美郷町)

「おだいじに」発行はたぶん夏の盛り。読者の皆様がこの表紙で涼しい気分になられたらいいなと思います。私はこの夏、お堀手前のキャッスル・ビアガーデンで涼を取りたいですが…。

表紙作品
ツツジの花束
佐々木かなえ(千葉克介写真教室)

真を並べ、ご勘弁。次回86号は10月の予定。ご協力を宜しく。
(編集長・佐々木康雄)